

令和7年度 第3回名取市地域学校協働活動運営委員会概要記録

○日時	令和8年3月23日(月)午前10時より
○場所	法務局名取出張所2階 会議室1
○出席者(5名)	峯岸寛仁委員、佐々木泉委員 伊藤宗男委員、小沢静子委員 洞口のり子委員
○欠席者(4名)	小沼貴昭委員、矢澤ユキ江委員、今野むつ子委員、五十嵐誓委員
○事務局出席者	生涯学習課 課長補佐兼生涯学習・青少年係長 熊谷 恵美 " 社会教育主事 隈川 貴文
○傍聴人	なし

会議概要

1 開 会 進行：熊谷補佐 10:00～

会議の成立確認

名取市地域学校運営委員会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し、会議成立を宣言した。

会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨を告げた。傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

2 あいさつ

教育長欠席のため割愛

事務局(熊谷補佐)

ここからの進行については、伊藤委員長にお願いしたい。

3 協議・報告事項

(1) 地域学校協働本部と市長との懇談会について

伊藤委員長

それでは、協議・報告に入る。地域学校協働本部と市長との懇談会について、事務局から報告をいただきたい。

隈川社教主事

各懇談会で出た意見等について主なものを紹介する。二中学校区域に関しては、委託

金の使用用途について幅を持たせてほしい。みどり台中学校区域に関しては、地域に熊の出没が相次いでおり、見守りボランティアなどの安全面が心配であるということ。閑上小中学校区域に関しては、校外学習に使用するバスの予約に苦慮していることと、職場体験での受け入れ先が減少してきていること。増田中学校区域に関しては、PTA活動の縮小による不安。一中学校区域に関しては学校から地域や保護者に向けてのボランティア募集についてのチラシの配布依頼。

また、全ての学校区域において、新規ボランティアの獲得や協力者の高齢化が課題となっている。

伊藤委員長

地域学校協働本部と市長との懇談会について事務局から報告があったが、委員の皆さんの質問やご意見をお聞かせ願いたい。

佐々木委員

各協働本部で計画的な運営がなされているのではないかと。

伊藤委員長

手引きを見ると、委託金の使い方に関して留意事項が記載されている。協働本部に再確認を促す必要があるのではないかと。

峯岸委員

新規のボランティアの獲得に関しては課題だと感じている。

伊藤委員長

本部役員に関しても言えることなのだが、一人の人が様々な団体の役職を掛け持ちしていることが多い。なり手がいない現状がうかがえる。

洞口委員

町内会でいえば、役員の高齢化は顕著である。子育て世代もいるのだが、休日や夜の会議は不参加の場合が多い。

小沢委員

閑上児童センターとして職場体験の受け入れを行った。児童センターでは親の会というものがあるのだが、協力的な保護者が多いと感じている。

峯岸委員

ある学校では、子育てが終わった方にPTAのボランティアをお願いしているようである。

(2) 各学校区の振り返りについて

伊藤委員長

続いて各学校区の振り返りについて、事務局より報告願いたい。

隈川社教主事

本部、学校、公民館を対象に地域学校協働活動の振り返りのアンケートを実施した。

その集計結果について説明をする。

一つ目として、学習や活動のねらい等について共有できているかという質問についてだが、本部では肯定的な回答が微増、学校では微減となった。

二つ目として、協働活動が地域住民等に理解されているかという質問についてだが、本部と学校ともに肯定的な回答の割合が増加した。

三つ目として、11の項目について協働活動による効果を感じているかという質問についての肯定的な回答の割合だが、学校については昨年度と横ばい、本部に関しては項目によって増減あり、公民館に関しては全体的に増加という結果となった。

四つ目として、11の項目での回答における学校と本部との差異についてだが、どの学校区においても大きな差異は認められなかった。

伊藤委員長

毎月発行される広報なとりでは、各学校区の活動の様子が紹介されている。公民館便りでも紹介されることがある。こういった取り組みが、地域住民等に対しての地域学校協働活動の理解につながっているのではないかと感じる。

佐々木委員

各学校での活動について生涯学習課が取りまとめを行い継続的に広報活動していることで、協働活動の周知につながっているのではないかと感じる。

峯岸委員

学校便りを活用して協働活動の様子を保護者に伝えているところである。年々理解されてきているように感じている。

洞口委員

広報記事にふれることで、実際に協働活動に参加していない人でも地域学校協働活動の様子を知ることができているのではないかと感じる。

伊藤委員長

11項目に対する評価についてだが、一つ一つの評価にこだわる必要はないのではないかと感じる。それぞれの学校や本部での長所を伸ばしてほしい。特に「子どもの学びや体験活動の充実」「子どもの安全確保」「子どもの地域への理解・愛着」の3つが重要なのではないかと感じる。

峯岸委員

閑上小中は、市内全域から児童生徒が集まってきているので地域づくりや地域のつながり強化といった部分の評価が低く出ている。とはいえ、さらに尽力していきたいと感じている。

隈川社教主事

公民館を利用している地域住民が地域学校協働活動にその成果を生かしている様子はあるかという公民館にのみ行った質問では、肯定的な回答が全体の7割となった。また、学びの成果を発揮しているかという質問に関しても、肯定的な回答が全体の7割と

なった。

本部の自由記述には、依頼講師の高齢化による辞退や PTA の縮小などに対する不安が記された。

学校の自由記述には、地域学校協働活動に関わる人材の確保に対する不安が多く記された。

公民館の自由記述には、人材確保に関する課題や公民館業務と地域学校協働活動との両立への課題が記された。

伊藤委員長

やはり、人材の確保が課題となっているようであるが、委員の皆さんはどのように感じられたか。

洞口委員

下増田地区についてだが、地域学校協働本部はワッシュイ DENDEN が前身となっているので毎年の事業がある程度決まっている。もう少し発展していきたいのだがなかなか難しい。また、地域から住民の転出入が多いので保護者協力の継続性が薄かったり子どもの地域愛が育ちにくかったりするのではないか。

峯岸委員

閑上小中は開校して8年になるのだが、地域のコミュニティは育ちつつある。PTA のOG や OB を活用しながら今後も地域学校協働活動を続けていきたい。

佐々木委員

増田西地区もコーディネーターや本部長のなり手がいないと聞いている。どの会議もメンバーが同じという話も聞いている。若手の人にやってもらいたいという気持ちはあるが、同時に難しさも強く感じている。

伊藤委員長

二中の仕事博覧会のように、学校区ごとにメインとなる事業があれば、人材確保も含めて地域住民の参加率の増加や地域学校協働活動の認知度向上につながるのではないか。

小沢委員

各地域の特徴を伸ばしていくのはいいアイデアである。

伊藤委員長

振り返りの観点に関してだが、地域学校協働活動に関わって自分の成長や学びなどが評価できるものがあればよいと感じた。

熊谷課長補佐

懇談会では、本部の方から「自分の生きがいになっている」などの言葉はいただいていたところであるが、そういった視点のアンケートの実施については検討してみたい。

広報誌の話になるのだが、最近の記事では協働本部の方の声を掲載するように工夫している。また、令和8年度では、1~2 ページの特集記事としてさらに地域学校協働活動

を広めていきたいと考えている。

伊藤委員長

そのような広報誌の取り組みは、実際に活動に取り組んでいる方を認めることにつながるので良いことである。

最後に事務局からコミュニティ・スクールについて説明をいただきたい。

隈川社教主事

コミュニティ・スクールとは学校運営協議体のことであり、地域住民が学校の運営に責任をもって参加し、学校と共に学校運営方針について話し合う会議体のことである。コミュニティ・スクールは話し合う場で、地域学校協働活動は活動の場である。コミュニティ・スクールは地域学校協働活動との一体的推進が求められており、令和8年度は一中学校区に導入が予定されている。

伊藤委員長

では、(3) その他について事務局より説明願いたい。

隈川社教主事

来年度の運営委員会の開催時期についてだが、第1回目が6月、第2回目が11月、第3回目を3月に予定している。時期が近付いたら改めて連絡をさせていただく。

伊藤委員長

進行を事務局にお返しする。

4 閉会

事務局（熊谷補佐）

以上で、令和8年度第3回地域学校協働活動運営委員会を閉会する。

11:10 終了